

第1学年4組 学級活動（2）指導案

1. 日時・場所 令和元年6月5日（水）5校時（13：30～14：15） 1年4組教室

2. 題材「みんな なかよし まほうのことば」
（イ より良い人間関係の形成）など

学級目標

いっしょうけんめい
けんきにあいさつ
なかよし
みんなのちからで

3. 題材について

（1）児童の実態（男子16名、女子12名 計28名）

小学校に入学して約2か月が経過し、新しい友達ができクラスにも慣れてきた。素直で、意欲的に活動し自分の気持ちを表現できる児童が多い。また、友達を大切にし、筆箱を落として中身が散らばってしまった時に、周りの友達の手伝うなど、助け合う姿も見られる。一方、場に応じた話し方、聴き方、相手を意識したかわり方。話し方については、意見を言うことができてもみんなに聞こえる声ではっきりと発表することが苦手な児童もいる。一部には相手に譲れなかったり自己中心的な言動をとってしまったりする児童もいる。最近では相手のことを思って優しく声をかけたり、困っている友達に手助けしたりできる児童が増えてきている。また、手紙や音読カードを配る時など、お手伝いを積極的にする児童も数多くいる。

普段から繰り返し、「学校でするお勉強は、自分たちの幸せにつながること」、「毎日、一生懸命積むことで、もっとお兄さん・お姉さんになれること」を話してきた。5月中旬、クラスの児童からどんな4組にしたいかを聞いて、出てきた言葉と学校目標をふまえ、キーワードを「よ・ん・く・み」につなげて、学級目標とした。

（2）題材設定の理由

5月中旬に初めての大きな行事・運動会を経験した。皆がより良い運動会にしようとひとつの方向に向かう時、練習時や普段の生活の様々ななかかわりの中で、友達に対して厳しい言い方をしまったり、きつい態度をしまったりする場面が多く見られた。言葉・態度についての知識・相手の気持ちを考える力と想像力がまだ不足しているように思えるので、その面を特に育てていきたいと考え今回の題材を設定した。言葉の使い方と言い方で相手の感じ方が大きく変わるということを、体験しながら感じ考え、習得して欲しい。

4. 評価規準 国立教育政策研究所 教育課程研究センター（評価規準の作成のための参考資料【平成23年】より）

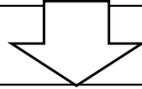
	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
1年・2年	自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方について理解している。

5. めざす子どもの姿に迫るための手立て

研究テーマ

互いのよさを生かし合い、一人一人が輝く特別活動

～仲間と共に歩む姿をめざして～



低学年のめざす子どもの姿

- 自分の思いを伝えようとする子【自分に自信をもてる姿】
- 友達の気持ちを考えて活動しようとする子【仲間と共に歩もうとする姿】
- 友達と助け合って活動し、学級生活をよりよくしようとする子【自分たちの生活は自分たちでつくっていかうとする姿】

【自分の考えを伝えようとする子】（自分）

○自分の思いを話すことの大切さを伝え、できた児童を褒め、認める。

- ・発言を促す言葉かけをする。発言する体験を重ねることで、自信をもって話し合いに参加できるようにする。

【友達の気持ちを考えて活動しようとする子】（仲間）

○板書の工夫 思考の可視化

- ・色分けした模造紙（ふわふわことば⇒ピンク・雲のような柔らかい形、ちくちくことば⇒ブルー・ギザギザの縁でとげとげしい形）に記入することで、分かりやすくする。

○話し方、聞き方の掲示（常時）

- ・話し方を意識することで自信をもって発表することができるようにすることと、みんなに分かりやすい発表ができるようにする。顔・体を話し手に向けるなどの聞き方を意識することで、話し合いの質を高める。

【友達と助け合って活動し、学級生活をよりよくしようとする子】（生活）

○実践活動（事後）

- ・実践で進んで活動していた児童を褒め、次回への意欲づけをする。

○クラス目標に立ち返る（事後）

- ・実践を通してその行動がクラス目標のどの項目に合っていたのか、クラス目標に近づくことができたかを確認し、称賛する。

6. 活動の実際

（1）事前の活動

活動の場	活動内容	支援（○）と評価（☆）	資料
6月3日 （月） 朝の時間	・クラスの実態を知るためのアンケートに答える。 （資料1）	○普段言われる言葉について、嬉しくなる言葉、具体的な場面を思い起こせるよう助言する。 ☆アンケートに答え、△△について考えようとしている。 （集団活動や生活への関心・意欲・態度）	アンケート （児童の意識を高めるための資料）

(2) 本時の活動

①ねらい 自分の言葉について考え、よりよい人間関係をつくろうとしている。

②展開

	児童の活動	支援 (○) と評価 (☆)	資料
導入	1. 本時のねらいを知る。 ふわふわ言葉とちくちく言葉について考える。	○アンケートの結果を円グラフで掲示し、友だちからの言葉で嬉しい気持ちになったり、傷ついたりすることがあると気づく。 ☆グラフを見てクラスの友だちが言葉によって嬉しくなったり傷ついたりすると気づいている。 (集団生活や生活への関心・意欲・態度)	・アンケート結果 (資料1)
展開	2. 人形によるロールプレイを見て、言葉と言い方について考える。 3. どんな言葉、言い方がよいか話し合う。	○ふわふわ言葉 (相手が喜び言葉) ちくちく言葉 (相手が傷つく言葉) があることを話し合う。 ○児童から出た言葉を色分けした模造紙に書き、黒板に掲示して分類する。 ○あいさつやお礼の言葉もふわふわ言葉であることを、例を挙げ助言する。 ○言い方 (やさしい・明るい・笑顔で等) によって、よりうれしくなる。逆の言い方 (乱暴・暗い・無表情等) で、いやな気持ちになることを知る。 ☆ふわふわ言葉やちくちく言葉について分かっている。 (集団活動や生活についての知識・理解)	・人形を使った実演。
終末	4. これからのめあてを立てる。	○板書された言葉から、2~3つ選びまた、どんな言い方をすることもめあてカードに書かせる。 ☆よりよい人間関係を築くために自分なりに考えてめあてをもととする。 (集団の一員としての思考・判断・実践)	・めあてカード (実践への意欲づけのための資料)

③板書計画

みんななかよし まほうことば

・ふわふわことば・ちくちくことば

(ねらいを焦点化するための資料)

うれしいもちになった いやなきもちになった

円グラフ

円グラフ

・ふわふわことば

・ちくちくことば

いいかた

・えがおでいう ・あかるくいう
・つめたくいう ・くらくいう

自分のめあてを決めよう

・ありがとう ・きらきらだね
・おうえんしてるよ・いっしょにあそぼ

(3) 事後の活動

活動の場	活動内容	支援 (○) と評価 (☆)	資料
6月6日～	<ul style="list-style-type: none">•自分のめあてカードに書いた事を実行できるように取り組む。•めあてカードに振り返りを書く。	<p>○書いためあてを掲示し、友達と励まし合い、認め合う中で目標を達成できるようにする。</p> <p>○個々の頑張りを認め、励ましたり、よい面を紹介したりする。</p> <p>☆自分の目標に向かって努力する大切さ、そのための取り組み方について理解している。</p> <p>(集団活動や生活についての知識・理解)</p> <p>☆自分の立てた目標に向かって自分なりに努力して取り組んでいる。</p> <p>(集団の一員としての思考・判断・実践)</p>	めあてカード (実践への意欲づけのための資料)

7. 資料

(1) 児童の意識を高めるための資料 (資料1)

しつもん

① あなたは、ともだちからいわれたことばでうれしいきもちになったことはありますか。

い

② それはどんなことばですか。

③ あなたは、ともだちにいわれたことばで、いやなきもちになったことはありますか。

はい・いいえ

(2) 実践への意欲づけのための資料 (資料3)

☆ めあてカード ☆

◎これから、このことばをつかうようにする。

◎こんないいかたをする。

■できたら、☆のなかをいろえんぴつでぬりましょう。

めあてのことばをいった
☆☆☆☆☆

いいかたにきをつけていえた
☆☆☆☆☆

めあてのことばをいった
☆☆☆☆☆

めあてのことばをいった
☆☆☆☆☆

1ねん 4くみ なまえ _____